実践報告書

札幌市立北九条小学校

［課題3］

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

①児童生徒・学校の実態

・本校には日本語指導を必要とする児童が1年生から5年生までで13名おり、国籍も多様です。
・本校の児童は帰国・外国人の子どもたちと出会い、一緒に学んでいく環境が入学した時から当たり前となっています。
・帰国・外国人の児童の大半は、文字を読んだり話したりは可能ですが、通常の教科学習や学校生活、日本文化の理解度がまだ低いため、コミュニケーションに困難を感じる場面が多くあります。
・多様な国籍の児童が在籍する本校ですが、国籍にかかわらずコミュニケーションが苦手な子がいます。
・そこで、児童・教員・保護者を繋ぐ、誰もが尊重され安心して登校できる環境を整えることで、多様性を認め、異なる価値観を承認し合える学校になることが必要です。

②ねらい（目標）

〇みんなでつくる　寄り添い　安心できる場
・多様性を認め、理解しながら関わりをもつことで、相互承認できる環境をつくる。

③活動内容

本校では、学級担任を一人にしない、学校全体で子ども達を育てていく「人」を大切にした連携体制を構築し「共生」を基本とした学びの環境づくりに重点を置いています。

1　学級環境づくり
安心して過ごすことができる
〇理解を助ける学習の工夫
〇相手を理解し関わりを生む

2　日本語の環境づくり
母語で話してもいい空間で
より安心できる環境の提供

〇学習支援　〇生活支援

みんなでつくる
寄り添い
安心できる場

3　学校全体の連携体制
多様性を認め、一人一人の
子どもたちを理解し、
認め合う関わり
〇他の教職員の関わり

実践報告書

札幌市立北九条小学校

［課題3］

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

③-1　学級環境

帰国・外国人児童が在籍する学級の担任は、学級において、学習面と生活面での丁寧な指導を心がけています。

違いを互いに認めながら望ましい人間関係を築けるような環境をつくります。

〇理解を助ける学習の工夫
・優しい言葉を使用する。
（短く・簡単な言葉を選ぶ）
・ゆっくりはっきり話す。
・板書は短い言葉でわかりやすく書く。
〇相手を理解し関わりを生む工夫
・座席配置（話しやすく、手助けしてくれる友だちを近くに）
・宗教や文化の理解
（お祈りの時間を確保したり、食事の違いを説明したりする）

③-2　日本語の環境

日本語指導担当教諭は、学級担任や保護者と相談しながら対象児童への日本語指導を行っています。在籍する学級に入り込んだり、別教室（本校では国際交流室）において学習指導や生活指導を行います。

帰国・外国人児童が不安を多く抱える初期指導を充実させ、時には母語で話をすることもできる場にして、より安心できる環境をつくります。

【重点内容】
・教科補助・日本語指導の充実
・学級担任と相談し実施する。
・初期指導は回数を多くする。
・週1～2回程度で「取り出し指導」や「入り込み指導」を行う。

③-3　学校全体の体制

学級の子どもたちだけでなく、学校全体で一人一人の子どもたちを理解し多様性を認め合いながら関わることができる体制づくりを行います。

〇学年担任
・学年での育ちを支援する。

〇担任外
・受け入れ時には保護者とも連絡を行い細かな面接を行う。

〇栄養教諭や養護教諭
・子どもや保護者の食や身体のケアを丁寧に行う。

〇用務員
・登下校時の見守りを行う。

みんなでつくる

実践報告書

札幌市立北九条小学校

［課題3］

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

④成果

みんなちがって　みんないい！

・子どもたちが多様性を認め、理解しながら自然と関わりをもてる姿を目標に研究を推進してきました。

〇帰国・外国人児童等への支援を窓口として、わかりやすさや共感した関わりを一人一人の教師が意識することで学級内のどの子の理解も助けるUD化につながりました。

〇子どもたちも、多様性を認め、理解しながら自然と関わり相互承認できる環境が生まれました。

⑤課題

学校の体制づくりの重要さ

〇コミュニケーションの壁への支援

・日本語指導担当教諭や他の教師の関わり（＝学級担任を助ける校内での連携）が必要です。

〇保護者の困りへの支援

・保護者の困りには職員室にいる担任外の教諭が対応し、帰国・外国人児童の困りには、日本語指導担当教諭が対応するという体制を本校はつくっています。

・しかし、保護者の困りの解決にはまだ不十分であると感じています。

⑥今後の取組の方向性

学校体制づくりの見直しと強化

〇保護者とのコミュニケーションを増やす

・学級担任だけではなく、日本語指導担当教諭は当該児童の困りを共感したり、日本語や教科の力について保護者と共有したりすることにより重点を置きます。

〇校内の連携体制の見直し

・帰国・外国人児童の保護者との関係づくりができる窓口を増やし、学級担任を支援することで、子どもにあった支援を十分に行き届ける体制を再構築します。

実践報告書

札幌市立北九条小学校

［課題3］

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦参考資料

【初期指導の充実】
・サバイバルカード
・学校で使う語彙を増やす

【受け入れの手引き】
・外国人児童生徒受け入れの手引き（文部科学省）

【日本語ゼロレベル】
・外国人児童・生徒用日本語指導テキスト「たのしいがっこう」東京都教育委員会（全24言語対応）など

【初級】
・新版　みえこさんのにほんご（三重県国際交流財団）
・ひろこさんのたのしいにほんご（凡人社）
・かんじだいすき（国際日本語普及協会編）
・にほんごをまなぼう（文科省）など

【中級以上】
・みんなの日本語　など

【本校で使用している教材例】

【児童にあった指導方法】
取り出しでの安心感を生む
・母語での会話ができる
・教科学習＋α
例）折り紙を折ることで、色や「折ります」等の日本語を楽しくおぼえることができる。

【学級での環境の工夫】
・座席配置を工夫し、活動での子どもどうしの支援体制をつくる。